

# 四十周年記念事業を終えて

会長 汐 月 三代吉

## 年頭の所感

初春の候、会員の皆様方には益々ご清祥のことと拝察申し上げます。昨年会長に就任してはや一年が過ぎ二年目を迎えることになりました。これも偏に皆様方のご指導ご鞭撻の賜物と深く感謝申し上げます。

さてこの一年を振り返りますと、まず第一に「佐伯史談復刻版」を増刷して希望者に頒布したことが挙げられますが、これは昭和四十年にガリ版刷りの第一号が創刊されて以来、活版印刷となるまでの十五年間に及ぶ膨大な郷土史料で、先輩諸氏の研究成果を鉄筆で振るわれた羽柴弘先生の偉業を永遠に保存すべく、平成九年七月第一刷の十六セットに続く二刷目として六十セット増刷したものです。

時あたかも高度成長期の只中であつて、ふるさとの自然や歴史環境、文化財等が受難にさらされるに当たり、佐伯史談会は常に問題を提起し会員に訴え、市民を啓発

しながら文化行政に貢献してきました。これら先輩たちの蓄積と行動力が、市民の共感を得て町づくりの大きな原動力になったことに感動するばかりです。

現在の佐伯市は文化財行政も充実して参りましたが、相変わらず市街近郊の開発は進んでいます。発掘調査によつて歴史が解明されるのは喜ばしいことではありますが、ふるさとの原風景や歴史景観が損なわれることが危惧されます。わが町にとつて重要な史跡や歴史景観は何処なのかを認識して、今後の道づくり町づくりに対処すべきではないかと思つています。

## 四十周年記念事業

平成十年十一月六日（金）佐伯史談会四十周年記念式典が佐伯視聴覚センターで開催されました。この企画に際しましては佐伯市教育委員会の後援を賜わり、式典には小野和秀佐伯市長から祝辞を頂戴しました。関係各位のご理解とご支援に対して深く感謝申し上げます。

また、功労会員に対して感謝状を贈呈しました。永年佐伯史談会の発展に寄与され、現在は顧問の立場にある方々は、社会的にも成果を上げられてその功績を高く評

価されており、われわれ佐伯史談会員の模範であり誇りとするところです。当日は代表して平川マサ顧問から謝辞をいただきました。

感謝状贈呈者名

清田義雄 古藤田太 軸丸 勇

山本 保 矢野弥生 平川マサ

### 記念講演会

式典に引き続き記念講演会を開催しました。式典のときには疎らであった会場も満席となり、配布資料も足りない状況でした。

演題は「佐伯が生んだ郷土の文人・矢野龍溪と佐藤鶴谷」、講師は大分県立先哲史料館主任研究員の安田晃子先生にお願いしました。

先哲史料館では先哲叢書の編纂に取り組んでおり、田能村竹田・大友宗麟・瀧廉太郎・ペトロ岐部カスイ等が刊行されております。わが佐伯からは矢野龍溪が取り上げられ、現在資料集八巻までが刊行されています。先哲史料館では何度か矢野龍溪についての講演会が開催され、われわれも聴講する機会を得ましたが、これほど高く評



記念講演会会場

価された郷土の先哲に対して無関心であったとは、佐伯市民の恥であり、また、研究者に対しても失礼ではなかつたかと反省した次第です。

今回は幸いにして、主任研究員で佐伯豊南高校にも在



講師 安田晃子先生

職されていたことがある安田晃子先生をお招きすることができました。政治家でジャーナリストでまた、小説家でもあった矢野龍溪について、分かりやすく研究のエピソード等も交えて講演されました。佐伯市民を代表して厚く御礼申し上げます。

なお、近く「矢野龍溪」の評伝及び普及版が刊行されるとのことです。佐伯史談会員および佐伯市民の方々に是非とも購読されますようお願い申し上げます。

### 郷土史料展



郷土史料展会場

十月六日（金）から八日（日）までの三日間、視聴覚センター多目的ホールで開催されました。

実施計画については実行委員会で再三検討され、会員所蔵の郷土史料を中心に展示品の収集にご尽力いただき

ました。

会場の正面には佐伯史談会の歩みと羽柴先生の遺品などを中心に据え、左右の壁面は清田先生の収集資料や会員の拓本が並びました。テーブルには古文書や教科書類、また会員著書や研究・収集資料などで埋めることができました。

何分、短期間の実施計画の中で主題を定めることができず、寄せ集め的な展示とはなりましたが、式典・講演会と併設して一応の体裁を整えることができました。出展ならびに会場の準備、片付けに協力いただきました会員の皆様方には厚く感謝申し上げます。

#### 記念特集号の発行

記念事業の一環として特集号の編集が提案されましたが、最終的には一七九号の合併号として十月二十二日に発行されました。

「佐伯史談会四十年の歩み」をはじめとして、物故会員遺族の方々による寄稿、会員の思い出、特別寄稿など十編が掲載されています。

こちらも限定された期間内に原稿募集となったために



郷土史料展会場

満足のいく編集とは言えませんが、寄稿された方々や原稿収集に歩かれた総務委員会の方々、また編集部会の方々  
の努力によって発行にこぎつけることができました。

## 四十周年事業の反省

この事業は年度途中に急遽企画されましたので準備期間が制約され、役員及び会員の皆様方には大きな負担をお掛けすることになりました。しかしながら短期間に取り組んだ成果としてはまずまずの成功であったと満足しています。これも偏に皆様方のご支援とご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。反省すべき点は多々ありますが、これを五十周年に向けての糧として新たな取組みが始まったと考えていただければ幸甚に存じます。

おわりに物故会員について、昨年は七月に染矢勘藏氏が十二月には清田義雄氏が永眠されました。染矢勘藏氏は評議員として青山・黒沢地区のお世話をして下さり、古文書講習会の講師も務められました。また、清田義雄氏は副会長及び事務局長として務められ、拓本技術を講習して下さいました。玖珠町に寄贈された玩具一万点は清田コレクションとして公開されています。

お二人のご冥福をお祈り申し上げます。合掌

## 『訂正』

一七六号

『古文書紹介』

六一頁一行目

●小浦鉾山

◎小浦銅山

三行目

●不申候哉

◎不申候状

六二頁八行目

●御承申候

◎伝承申候

一七九号

二八頁四行目

●岩田義市先生

◎岩田善市先生

左のように間違いがありました。訂正してお詫びします。また、『古文書紹介』の解説は特別入念にしていますが、それでも読み違いや誤字があります。御指摘下さい。